

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

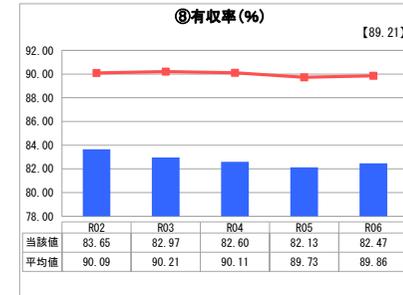
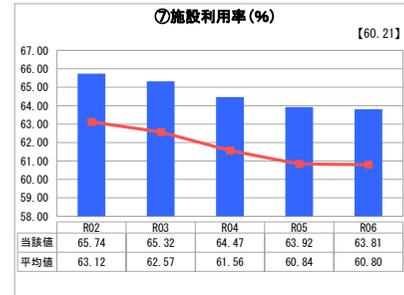
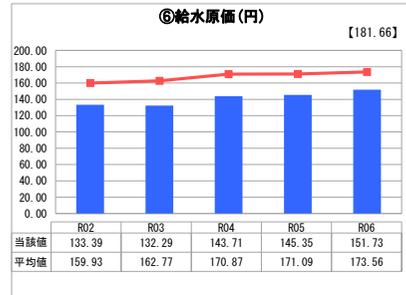
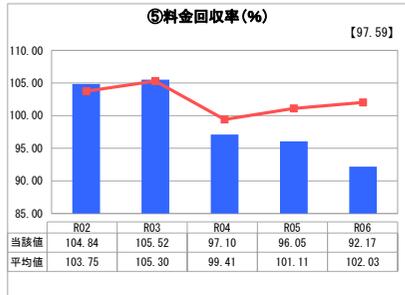
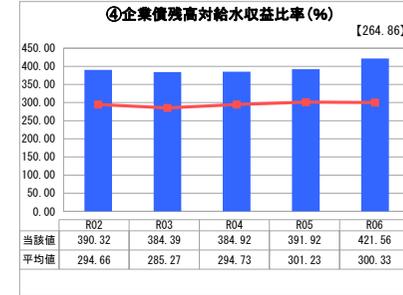
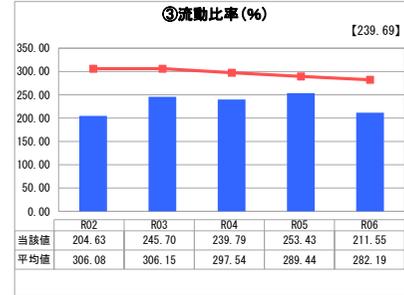
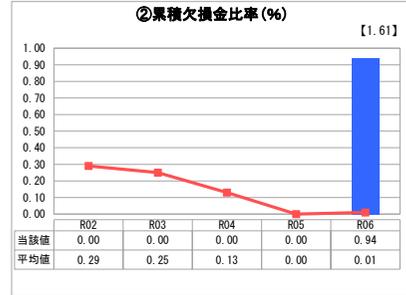
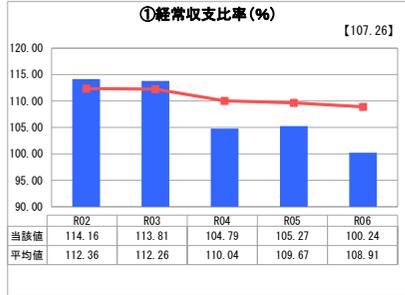
神奈川県 小田原市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)	
-	63.55	91.90	2,255	

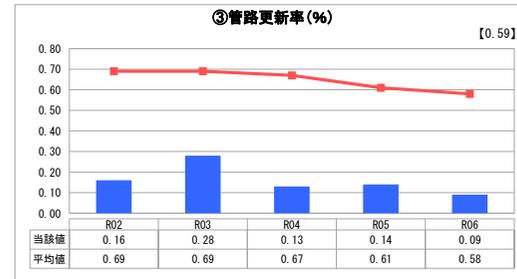
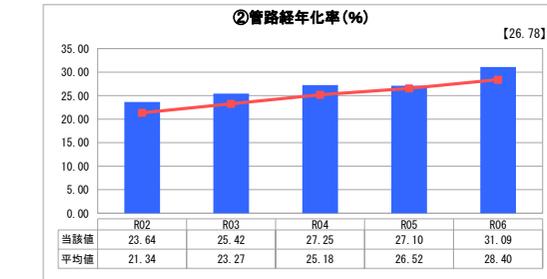
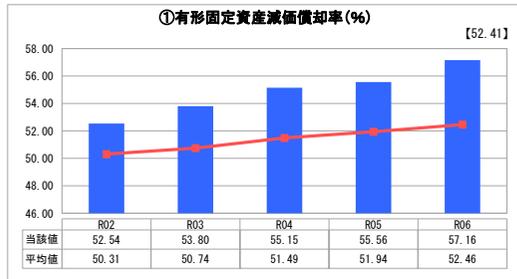
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
186,464	113.60	1,641.41
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
170,935	55.31	3,090.49

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
□	令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は100%を上回っているが、類似団体平均を下回っています。⑤料金回収率は100%を下回っており、類似団体平均を下回っています。令和6年度決算は純損失を計上しており、②累積欠損比率が0.94%となっています。⑥給水原価については、物価高騰や人件費の増により微増となりましたが、類似団体平均を下回っています。大規模事業の建設が進み企業債残高が増しているため、④企業債残高対給水収益比率については指標が上昇し、類似団体平均値よりも高い水準にあります。同様の理由で③流動比率は昨年より下がっています。⑧有収率については、地下漏水の早期発見・早期修繕に努めており、数値はやや上昇しましたが、類似団体平均は依然として下回っています。※経営比較分析表の指標は、地方公営企業決算状況調査の数値を機械的に計算したものであり、⑤料金回収率と⑥給水原価は、本市の公表指標と異なります。（R6料金回収率95.95%、R6給水原価145.76円）

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率、②管路経年化率が類似団体平均値と比べ高い水準となっている一方、③管路更新率が低く推移していることから、施設の老朽化が進んでいると分析されます。管路の老朽化対策は、主に昭和40年代中頃以前に布設した管路について更新事業を進めています。多額の事業費を要する基幹管路から優先的に実施しているため、実施延長が伸びず管路更新率が低い値となっています。

### 全体総括

将来において、水需要の低下によりさらなる給水収益の減少が予想される一方で、地震対策及び施設・管路の更新や維持管理などといった支出の増加が避けられない状況となっており、事業経営の効率化と財政基盤の強化が必要となります。今後は、アセットマネジメント（資産管理）を活用した水道施設の計画的な更新や規模の適正化による効果的な投資を進めるとともに、漏水対策による有収率向上に資する取組や効率的な維持管理による水道施設の長寿命化に努めていきます。また、安定的かつ健全な経営を継続できるよう財政推計を行うとともに、収入の根幹をなす水道料金については、定期的に適切な料金水準を検討していきます。